

微生物学免疫学教室特別セミナー

# 「二種類のオステオポンチンアイソフォームによる ミエロイド細胞とリンパ球系細胞のバランス制御」

かなやま まさし  
**金山 剛士 博士**

Shinohara laboratory, Department of Immunology,  
Duke University School of Medicine

(現所属: 東京医科歯科大学難治疾患研究所)

(要旨) 免疫細胞の産生は炎症や感染防御に必須のイベントであり、各細胞集団のバランスは緊密に制御されていると考えられる。しかしながら、細胞群の大きさを制御する「力点」は各細胞集団において異なる。自然免疫を担う好中球や単球は比較的短命で、炎症や感染時には使い捨てにされる運命にあり、「骨髄」での造血反応がその数に強く影響する。一方、T細胞やB細胞は骨髄で生み出された後、二次リンパ組織へと移行し、抗原や炎症性因子の刺激に依存して「末梢」でその数を増減させる。私たちは最近、オステオポンチンと呼ばれるタンパク質が、ミエロイド細胞とリンパ球系細胞の各「力点」に作用し、細胞集団のバランスを統括的に制御する機構を報告した。本セミナーでは、このテーマを中心に近年の私たちの研究内容について紹介する。

2017年8月3日 (木) 17:00～  
東校舎1階セミナー室

世話人: 微生物学免疫学教室 吉村 昭彦 教授  
連絡先: 竹馬 俊介 講師 (内線61231)